

観音さまに出逢う

令和二年七月二十二日(水)

五泉市 永谷寺ようこくじ 吉原 東玄とうげん

テーマ 「観世音菩薩」

○「観自在菩薩」ともいう。「観世音」とは「あらゆる方角に顔を向け、苦しみ悩んでいる衆生の声を聞く」という意味。転じて「いつでもどこでも誰でも、そこで真実に出会う」ことになる。観世音菩薩は、阿弥陀仏の脇侍(傍について従う者)とされ、阿弥陀仏の慈悲を人間につなげる出会いの働きを表している。

○「観自在」とは、「三十三応現身おうげんじん」といい、衆生の機に応じた姿(三十三体もの姿に変身する)となって現れて法を説き、自在に救済する、出会いの働きをもった仏さまであると言われている。三十三観音霊場巡りなどの縁起はここから来ている。

道元禅師、瑩山禅師とともに『観音経』の信奉者であった。特に瑩山禅師の熱心な観音信仰逸話は有名である。(「母親が熱心な観音信仰者だった」)

○『妙法蓮華経観世音菩薩普門品偈』中の一説を抜粋(意識付き)

或過惡羅刹 毒竜諸鬼等 念彼觀音力 時悉不敢害

(恐ろしい鬼・毒竜・多くの幽霊などに会っても、かの観音菩薩の力を念ずることができれば、直ちにみな、故意に危害を加えることはないでしょう)

・書籍紹介

奈良康明著 「自己をわすれる ―生き方としての仏教―」東京書籍